

2012年9月12日

報道各位

J X日鉱日石金属株式会社  
三井金属鉱業株式会社  
パンパシフィック・カッパー株式会社

佐賀関製錬所「第一大煙突」の解体について  
—— 約百年に及ぶ産業興隆・街づくりの使命に幕 ——

J X日鉱日石金属株式会社（本社：東京都千代田区大手町二丁目、社長：足立吉正）および三井金属鉱業株式会社（本社：東京都品川区大崎一丁目、社長：仙田貞雄）の共同出資による銅事業会社パンパシフィック・カッパー株式会社（本社：東京都千代田区大手町二丁目、社長：足立吉正）は、このほど、佐賀関製錬所（所在地：大分県大分市大字佐賀関、所長：和氣 収）において、かつて世界一（167.6m）の高さを誇った「第一大煙突」を解体することといたしました。

「第一大煙突」は、1916年（大正5年）、同製錬所開設と同じ年に建設されてから百年近くが経過し、老朽化が著しいため、これを解体することとしたものです。これにより、製錬所の排煙機能は、隣接する「第二大煙突」に集約されます。

本工事の着工にあたり、本年10月10日（水）に同製錬所構内において、安全祈願祭を挙行いたします。工事完工は、明年6月の予定です。

この「第一大煙突」は、明治から大正にかけての銅製錬業の宿命的課題であった煙害問題（亜硫酸ガスによる山林・農作物などへの被害）の解決に向けて建設されました。以来、製錬所の重要な操業関連施設であると同時に、その雄姿は、「関の大煙突」との異名のもと、地元・大分における「産業・経済の興隆」、「街の繁栄」のシンボルであり、また多くの方々の故郷を想う縁（よすが）でもあり続けてきました。

今般の解体により「第一大煙突」がこのような使命を全うすることに鑑み、製錬所として、この大煙突の記念碑の設置についても検討しております。

同製錬所においては、「第一大煙突」の解体のほか、煙道など老朽化した一部設備の補修、関係設備の清掃、構内緑化などをリニューアル計画として順次とり進める予定です。

また併せて、省エネ・効率化の一層の推進、リサイクル関連設備の増強などにより、さらなる競争力強化を図るとともに、資源循環型社会に適合した製錬所の構築に向けて取り組んでまいります。

以 上

【ご参考】

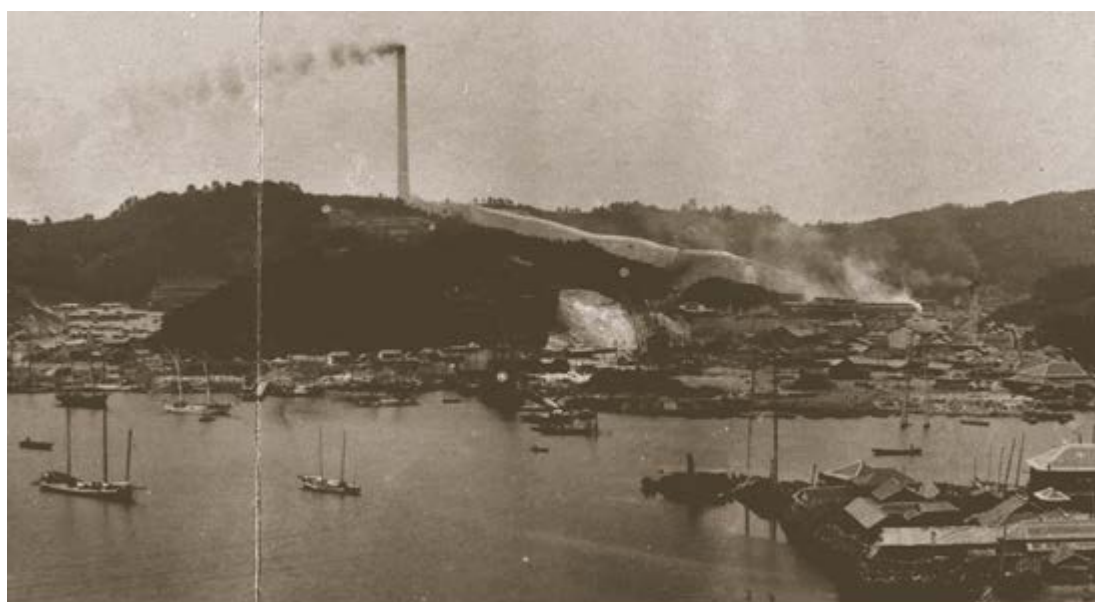
1. 第一・第二大煙突の概要

	第一大煙突	第二大煙突
(1) 煙突の高さ	167.6m (建設時)	200m
(2) 設置場所の標高	126.5m	125m
(3) 設置時期	1916年(大正5年)12月	1972年(昭和47年)9月
(4) 煙突の内径	8m(頂上部)、11.5m(底部)	7m(頂上部)、12.5m(底部)

2. 現在の佐賀関製錬所 全景 (2本の煙突のうち右側が「第一大煙突」)



3. 建設当初の「第一大煙突」(1917年(大正6年)頃)



【お問合せ先】

J X日鉱日石金属株式会社 総務部広報担当

03-5299-7079

パンパシフィック・カップー株式会社 佐賀関製錬所 総務部総務課

097-575-3310